

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 田原小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	31人	算数	31人	理科	32人
第5学年	国語	19人	算数	19人	理科	19人

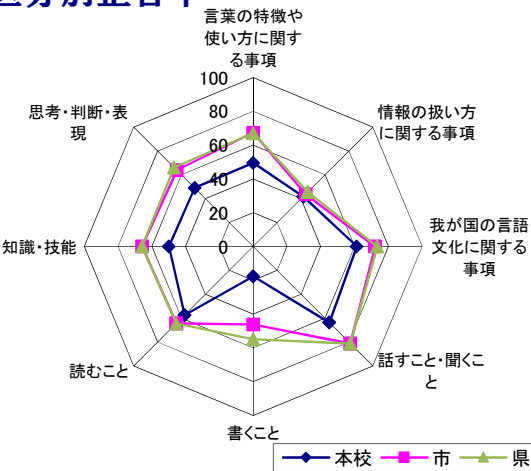
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	49.5	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	41.9	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	61.3	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	63.7	81.2	81.2
	書くこと	17.7	46.2	54.9
	読むこと	57.3	64.3	64.5
観点	知識・技能	49.9	65.7	65.7
	思考・判断・表現	49.0	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

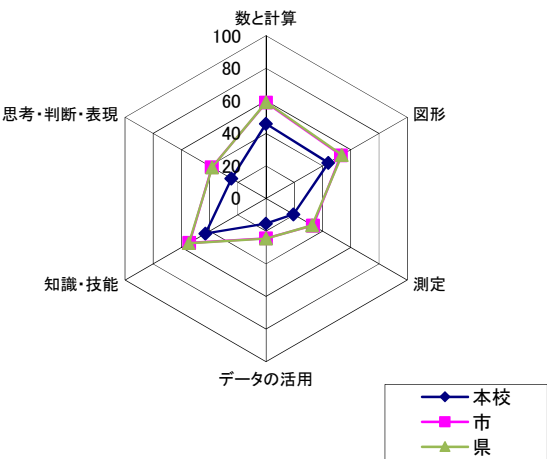
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ●漢字の読み書き、主語と述語、ローマ字表記に関する設問の正答率が低い。	・朝の学習の時間、宿題、家庭学習強化週間等を通して反復練習を行う。 ・既習学年の漢字テスト等で復習する。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均よりやや低い。 ●国語辞典の言葉の意味の中から、文章に合う意味を見付ける設問の正答率がやや低い。	・国語辞典を日常的に用いて、言葉の意味を理解する機会を設ける。また、その活動を通じて同じ言葉でもいろいろな意味があることを気付かせる。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ●漢字のへんをつくりを正しく組み合わせて、既習の漢字を作る設問の正答率が低い。	・同じへん・つくりをもつ漢字集め等を通してへんやつくりに興味をもたせ、ゲーム形式で学ぶ機会を設ける。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉える設問の正答率が高い。 ●司会者の話し方の工夫や参加者の発言を基に内容をまとめることや相手に伝わるように自分の考えを理由を挙げながら話すことに関する設問の正答率は低い。	・国語の時間だけでなく、学級活動等で司会の経験をさせるなど、自分の考えを相手に伝える経験を増やす。
書くこと	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ●意見文を記述する設問において、県や市の平均を大きく下回った。またその半数は無回答であった。	・朝の学習の時間で、書くことの練習をする。(文字数・段落・時間・理由などを意識して書くことができるよう繰り返し指導していく。) ・振り返りの時間を活用し、自分の考えを書くようにさせる。
読むこと	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○登場人物の気持ちや行動の理由を説明した文として適するものを選ぶ設問の正答率が高い。 ○叙述を基に段落の内容を捉える設問の正答率が高い。 ●叙述を基に指示語の内容を捉える設問の正答率は低い。 ●文章を読んで感じたことや分かったことを共有することや、場面の様子について叙述を基に捉える設問の正答率が低い。	・指示語の役割を捉えることができるように、指導していく。 ・文章から人物がどう考えているのかを想像して読むことができる機会を増やす。

宇都宮市立田原小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	45.9	58.9	59.2
	図形	44.1	53.0	53.7
	測定	19.4	33.1	32.6
	データの活用	15.3	24.4	24.6
観点	知識・技能	42.9	54.3	54.7
	思考・判断・表現	24.6	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

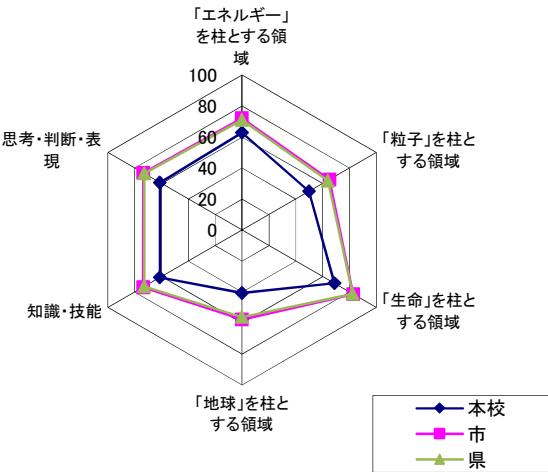
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○小数のしくみや表し方についてはよく理解している。 ●2桁÷1桁のあまりのない計算ができる。 ●分数の表す大きさについて理解不足である。同分母の加法の意味や計算の仕方を説明する設問に課題が見られる。	・今後も習熟度別の授業や繰り返し学習を通して基礎的事項の習熟を図り、タブレット端末に備えられている計算ドリル等を使って計算の練習を行う。 ・身近な例を用いて分数の意味についての理解を図るとともに、授業の中で計算の仕方について自分の言葉で説明させる場面を取り入れるなど論理的な思考を育む指導をする。
図形	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○二等辺三角形の性質を理解している。 ●円の性質を利用して正三角形を作図する設問に課題が見られる。	・今後も習熟度別の授業や繰り返し学習を通して基礎的事項の習熟を図り、タブレット端末に備えられている計算ドリル等を使って反復練習を行う。 ・複数の条件を使って解くような応用問題についても授業で取り上げ、図形への理解を深めるようにする。
測定	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ●はかりの目盛りを読み取る設問に課題が見られる。 ●地図から2つの道のりを読み取り、差を求める設問に課題が見られる。	・今後も習熟度別の授業や繰り返し学習を通して基礎的事項の習熟を図り、タブレット端末に備えられている計算ドリル等を使って反復練習を行う。 ・実際にはかりを使って重さを量るなど、体験的な活動を取り入れ、測定器機等の扱いについて習熟を図る。
データの活用	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○棒グラフから示された値を読み取ることができる。 ●目盛りの付け方の異なる複数のグラフについて数の比べ方を説明する設問に課題が見られる。	・今後も習熟度別の授業や繰り返し学習を通して基礎的事項の習熟を図り、タブレット端末に備えられている計算ドリル等を使って反復練習を行う。 ・身近な事象についてグラフにまとめさせたり、グラフを使うよさを感じられる身近な例を取り上げたりしてデータを見ることに親しませるようにする。また、授業の中で自分の言葉で説明させる場面を取り入れるなど論理的な思考を育む指導をする。

宇都宮市立田原小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	62.8	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	50.0	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	68.8	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	40.6	57.7	56.2
観点	知識・技能	61.2	73.8	72.8
	思考・判断・表現	61.2	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ●風が強くなると、ものを動かすはたらきが大きくなる問題や車が動く距離を考える問題の正答率が低い。表やグラフから解答を導き出すことができなかった。 ●電気を通すものについて理解しているかどうかをみる問題の正答率が低い。電気を通す物質についての理解ができていない。	・単元の導入で、自然の事象や現象から見いだした問題に対し、既習事項や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を立てさせ問題解決の力や主体的に問題解決しようとする態度を養うことに重点をおいて指導していく。 ・実験結果を自分の言葉でまとめたり、グラフや表に表したりして比較・分類するとともに、考察を導き出すなどの時間を確保し、科学的な思考を深められるような授業展開を行う。 ・実験・観察の結果・考察から、重要な語句を確認し、実感的に身に付けられるようする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ●同じ体積でもものの種類によって重さが違うことについて表と関連付けて、考える設問の正答率が低い。 ●形を変えても重さは変わらないことについて理解しているかを問う設問の正答率が低い。	・対象物の形や向きを変えて計測するなど、実物を操作して結果を記録したり、考察したりする活動を充実させていく。 ・実験結果からの話し合いの内容を問う問題の理解が不十分であることから、予想や実験後の考察などを書かせるようにしたり、意見を交換して結論を導き出す活動を増やしたりして、理由や事象について言葉で説明する力を育むようにしていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○植物の体のつくりの共通点を選ぶ設問の正答率が高い。 ●観察記録に必要な項目を理解したり、複数ある観察記録を見比べて共通点や相違点を見いだしたりすることに関する設問の正答率が低い。 ●植物の初めに出てきた葉の名称を答える設問の正答率が低い。	・今後も、日頃から身近な場面で自然や季節に触れる機会を設定し、日常生活と科学的事象を結び付けた体験を増やしていく。 ・観察記録を見比べたり、共通点や相違点を話し合わせたりするなどして、複数の記録を比較して考察する活動を増やしていく。 ・観察を基に植物の基礎的なつくりや名称を確認し、基礎的用語を理解できるよう指導していく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ●かげが太陽の反対側にできることを理解し、かげふみの動きと結び付けられるかどうかを見る設問の正答率が低い。 ●太陽の位置の変化を方位で考える設問の正答率が低い。	・日頃の生活と、学習する内容を結び付けて考えさせ、身近な疑問から学習を深め、解決しようとする態度を育む。また、体験的活動を取り入れ、実感的に太陽と影の関係について理解できるよう指導していく。 ・影の向きから太陽の位置を推測し、方角と結び付ける考え方が不十分であることから、実際にできた影や太陽の向き、方角などを観察・記録し、それらを関連付けて結果を考察させるなどして、様々な要素を複合的に結び付けて考える力を育むようにしていく。

宇都宮市立田原小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○家での生活について、「毎日、朝食を食べている」の肯定的回答が100%だった。今後も食事についての必要性や習慣等について子どもだけでなく家庭にも情報を提供していく。

○「授業を集中して受けている。」の肯定割合は96.4ポイントで市の平均を上回っている。今後も児童が集中して受けることができるような授業展開を意識していく。また、児童が「わかった！できた！もっとやりたい！」という学びのサイクルを回し、家庭学習に自発的に取り組むことができるような授業・声掛けも並行して行っていきたい。

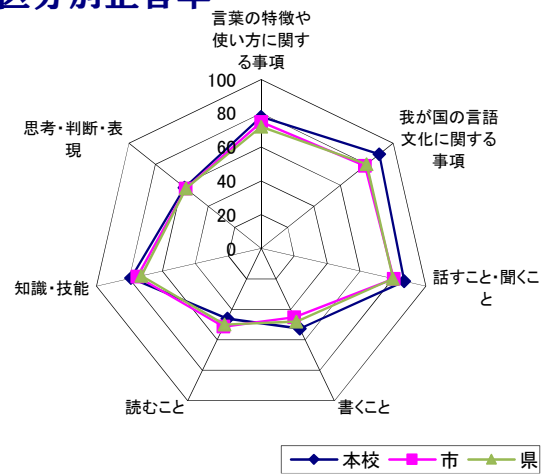
●「家で、自分の計画を立てて勉強している。」「家で、学校の予習をしている。」「家で、学習の授業を復習をしている。」「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」の肯定的回答が市の平均よりも大幅に下回っており、家庭学習の未定着が見られる。また、主体的に粘り強く取り組む態度が課題となっていることから、困難なことに出会ってもやり抜く力や課題に対して自分から進んで取り組んでいく力を身に付けることができるよう学校と家庭で前向きに取り組めるような声掛けをしていく。

●家での生活について「家の人としてよう来のことについて話すことがある。」「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる。」「家の人と学習について話をしている。」の否定的回答が3割程度いる。また、平日のテレビやテレビゲームの視聴・使用時間を問う問題では、4割以上の子どもが3時間以上と回答している。今後は学級通信や懇談会等で問題提起を行い、学校と家庭で前向きに取り組めるような声掛けをしていく。

宇都宮市立田原小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	77.9	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	89.5	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	86.8	80.4	80.0
	書くこと	52.6	45.1	48.0
	読むこと	46.1	51.3	50.0
観点	知識・技能	79.0	75.2	72.8
	思考・判断・表現	57.9	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

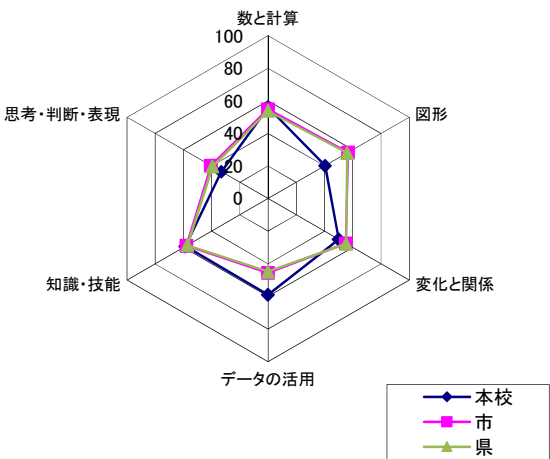
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○漢字の読み書き、修飾語の関係、熟語の組合せなど、いずれの設問でも、県や市の平均より高い。	・宿題や自主学習、朝の学習などの時間を効果的に使って指導を継続して行う。
情報の扱い方にに関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○慣用句の意味の理解を問う設問の正答率が高い。	・今後も指導を継続し、日常的に慣用句を使って話すことで、生活の中でも楽しんで言葉に関わることができるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える設問の正答率が高い。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉える設問の正答率が高い。	・今後も、国語や学級活動等の話し合い活動の場において、相手の話を聞く際に、話の中心や相手の意図を意識して聞くことができるように指導していく。
書くこと	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○指定された文の長さや二段落構成、事実や自分の考えを書くことができた。 ●データの読み取りにやや課題が見られた。	・データの読み取りも含めた「書くこと」の指導に力を入れる。
読むこと	平均正答率は、市や県の平均よりやや低い。 ○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することに関する設問の正答率が高い。 ○叙述を基に文章の内容を捉える設問の正答率が高い。 ●登場人物の気持ちの変化を具体的に想像することや、場面の様子について叙述を基に捉える設問の正答率が低い。	・登場人物の気持ちの変化に焦点を当ててじっくり考える授業展開にしたり、○文字以内で書き抜き問題に対して答える経験を増やしたりする。

宇都宮市立田原小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.0	54.9	53.7
	図形	40.4	56.6	56.1
	変化と関係	50.0	55.1	55.2
	データの活用	59.0	45.5	44.8
観点	知識・技能	58.6	57.8	57.2
	思考・判断・表現	33.1	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

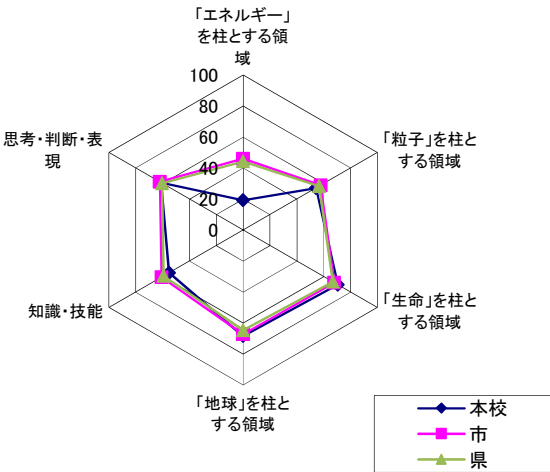
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○小数のしくみをよく理解して、掛け算や割り算の計算がよくできている。 ●割り算の性質を理解し、計算の工夫について説明をする設問に課題が見られる。	・今後も習熟度別の授業や繰り返し学習を通して基礎的事項の習熟を図り、タブレット端末に備えられている計算ドリルを使って計算の練習を行う。 ・問題の場合に限らず、普段の授業からの思考の流れを文章化する指導を行い、論理的思考力を身に付けさせる。
図形	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○立体の展開図をよく理解している。 ●三角定規の角を利用しておよその角度を求める設問に課題が見られる。 ●平行四辺形の作図に課題が見られる。	・今後も習熟度別の授業や繰り返し学習を通して基礎的事項の習熟を図り、タブレット端末に備えられている計算ドリルを使って反復練習を行う。 ・図形の定義を確認した上で、どのように作図をすればよいかを考えさせ、図形の理解を深めたい。
変化と関係	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ○表を横に見て伴って変わる2つの数量関係を読み取り方を理解している。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことに課題が見られる。	・今後も習熟度別の授業や繰り返し学習を通して基礎的事項の習熟を図っていき、タブレット端末に備えられている計算ドリルを使って反復練習を行う。 ・身のまわりの伴って変わる2つの数量の関係に着目し、図を使って表す活動を通して、関数的な見方や考え方ができるようにしていく。 ・変化の様子を視覚化して、数量どうしの関係を捉えやすくしていく。
データの活用	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○二次元表の読み方の理解に関する設問をよく理解している。 ○折れ線グラフから、必要なことを読み取ることがよくできている。	・今後も習熟度別の授業や繰り返し学習を通して基礎的事項の習熟を図り、タブレット端末に備えられている計算ドリルを使って反復練習を行う。 ・今後も継続して、統計的な見方・考え方を伸ばすために、折れ線グラフの見方、読み方について確認し、データとして活用できるよう指導する。

宇都宮市立田原小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	19.3	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	54.2	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	70.5	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	68.4	67.2	64.6
観点	知識・技能	55.3	60.8	59.2
	思考・判断・表現	61.1	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均より低い。 ●簡易検流計の針のふれる向きと電流の向き、ふれ具合と電流の大きさの関係に対する理解に課題が見られる。	・授業においては、学習課題を明確にし、既習内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を立て、実験結果から考察して自分の言葉で表現するといった学習活動を展開することで、課題に対する答えをを児童自ら考える力を育んでいく。 ・定期的な復習を行い、学んだ知識の定着を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均よりやや低い。 ○試験管の水面近くを熱した時の水の温まり方についてよく理解している。 ●水や空気をあたためたとき、金属を温めたり冷やしたりしたときの体積の変化についての理解に課題が見られる。	・実験や観察を充実させ、予想と結果を結び付けて考えることや、分かったことをまとめたり、振り返ったりすることを繰り返していくことで、実体験を知識に結び付けられるようにして、知識の定着を図る。 ・身近な物を使って説明し、生活経験にも結び付けられるような教材を活用して、理論を実践的に理解できるよう指導していく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○腕を伸ばしたときの筋肉の様子についてよく理解している。 ●骨と関節についての理解にやや課題が見られる。	・様々な事象について、「なぜ?」「どうして?」という疑問を大切にし、科学的な思考を深める機会を生かしながら指導していく。 ・筋肉や関節の動きが分かる模型や動画教材等を積極的に活用し、視覚的・体験的に理解が深まるように工夫していく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市や県の平均より高い。 ○天気と一日の気温の変化の関係と月の動きについてはよく理解している。 ●空気の水蒸気が冷やされると液体の水になることの理解に課題が見られる。	・実験器具やデジタル教材などを積極的に取り入れ、一つの事象が他の事象と関連して起こっていることへの理解を深め、知識としての定着を図っていく。 ・実験結果から考察して自分の言葉で表現するといった学習活動を展開することで、課題に対する答えをを児童自ら考える力を育んでいく。

宇都宮市立田原小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」の質問についての肯定的回答割合が78.9%で、市の肯定的回答割合より18.8%高い。宿題を行うことに加え、自分の課題に合わせて自主学習に取り組むことができていることがうかがえる。

○「学校の宿題は、やりたくなる内容だ」の質問についての肯定的回答割合が89.4%で、市の肯定的回答割合より31%高い。児童が意欲をもって宿題に取り組んでいることがうかがえる。今後もやる気をもってより取り組みたくなるような内容の課題を設定していきたい。

○「クラスは発言しやすい雰囲気である」の質問についての肯定的回答割合が94.8%で、市の肯定的回答割合より10.8%高くなっており、また「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の質問では、肯定的回答割合が100%で、市の肯定的回答割合より21.2%高い。これらのことから、授業中安心して自分の考えを発表したり友達に伝えたりすることができていることがうかがえる。今後もこれらのことが継続して行っていけるよう支援していきたい。

○「家の人と学習について話をしている」の質問についての肯定的回答割合が94.7%で、市の肯定的回答割合より14.1%高い。各家庭での児童に対する学習状況への意識が高く、それぞれの家庭で適切な支援がなされていることがうかがえる。今後も家庭との連携を図りながら、児童のよりよい支援にあたっていきたい。

●「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の質問についての肯定的回答割合が79%で、市の肯定的回答割合より3.3%低かった。また、「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」の質問についての肯定的回答割合が47.4%で、市の肯定的回答割合より3.2%低かった。協力して課題を解決したり、むずかしい問題を周囲に質問したりすることは大切だが、安易に周囲に頼りすぎてしまわないように、適度な自己解決の場を設定していく必要がある。

宇都宮市立田原小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・教材や言語活動を充実させた授業展開の工夫をし、主体的・対話的で深い学びの実現を目指した授業改善を行う。 ・児童相互の学び合いの場で、自分の意見を話したり、友達の考えを聞いたりする活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設問24～27の項目において、4年生では市や県の平均を下回り、5年生では市や県の平均を上回った。日々の授業の積み重ねが、児童の深い学びに繋がるため、今後も教材や言語活動を充実させた授業改善を行ったり、児童相互が学び合う中で、自他の成長を感じることができるようになっている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
設問29「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」において、振り返りができている学年とできていない学年の差が大きかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・学びの手応えを実感したり、思考の変化を自覚したりできる振り返りの充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が、学びの手応えを実感したり、自己の学びの変容を自覚したりすることができる振り返りを行う。 ・今日学んだことが、次の時間や今後に生かされるような授業及び単元展開ができるよう授業改善に努める。